

# 学園だより

No51  
令和2年1月

発行  
広島県立広島学園  
東広島市八本松町原 10844  
電話 (082) 429-0351

新春のお慶び申し上げます。

本年もよろしくお願いいたします。

## 5人での挑戦

「バレーを通して学ぶこと」

監督 鈴木 優佳

十月十七日(木)、十八日(金)

に、鳥取県で第四十二回中国女子児童バレーボール大会が開催されました。入所して一か月のバレーボール初心者も含めて、五名での挑戦でした。結果は、全戦全勝。すべてストレート勝ち。これまで練習してきたことをすべての瞬間で出し切り、どの試合も本当に素晴らしい試合でした。

中国地区の六人制バレーボールの大会では、児童が四名以上いれば正式チームとしての参加が可能です。

昨年度は児童が四名だったため、ルール上は正式チームでの参加が可能でしたが、技能的に四名での試合参加が難しかったため、職員を交えて

オープンチームで参加しました。

しかし、今年度は、たとえ負けたとしても何とか児童だけの正式チームで参加させてやりたいと思うほど、良いチームに仕上がりました。

春から四名でバレーボールの練習を開始し、サーブ、サーブカット、パスなどの基礎を徹底的に練習しました。前向きに練習に取り組む児童が多く、最初から良い雰囲気での練習することができました。また、冬季の長距離練習で、かなり走り込みや運動能力を上げるための動きづくりをしていたため、基礎技能は驚くほどの勢いで吸収していききました。そのため、今年原則三段攻撃で返球することやブロックに確実につくことなど、昨年度よりもレベルアップした練習をすることができました。

大会まで一か月というところで、新入生が加わり、新入生には個別指導をしながら、全体には最後の追い込みをかけました。実戦経験を積ませるために、三週連続で練習試合を

組みました。どの試合でも新たな課題が発見でき、その都度、課題を克服するための部分練習をしました。最後の二週間では、苦手だったネットプレーや相手の身体の方角を見て、

瞬時にボールの軌道に入ることなど、難易度の高い技能練習を徹底的に行いました。そして、一番の課題であった一球のボールに執着し、何が何でも返球するという態度が定着してきました。

試合当日は、勝敗ではなく自分が後悔しないプレーをして欲しいと伝えて試合に臨みました。昨年度から「スモールステップで やったらでき」という小さな成功体験を積み重ねてきたことで、少し苦しい場面になっても、自分や仲間を信じて目の前のプレーに集中することができました。また、少しの気の緩みで大きく崩れることがあることも体験して知っていたから、優位な状況でも慢心することなく、一球に執着したプレーをすることができました。これまで練習してきたことをきっちり、

本当にきっちりやり切り、どの試合、どの瞬間を見ても本当に素晴らしい試合をしました。

表彰式で首にかけてもらったメダルを持って、生まれて初めてメダル

をもらった！」と、幼児のように全力で嬉しさを表現している児童を見て、これまでの道のりを振り返り、児童の成長を感じました。

バレーボール部の練習は、バレーボールの技能向上のためにしているわけではない。バレーボールの練習を通して、別の大切なものを得るためにやっている。」

私が、いつも児童に話している言葉です。誰かのせいにして言い訳をせず、ただ自分にできることを必死にやり遂げた者にしか味わえない感動を経験させたい。それを経験したことのあるものと無い者とは、最悪な状況の時、最後の二歩を踏みとどまれるかどうかが変わってくると、私は思っています。

今後も部活動や行事への取り組み、日々の生活の中で、この大切なもののかけらを児童の心の中に残していけるよう努めたいと思います。



## 学園行事

### ◆ふれあい運動会

小六 男子

運動会前の生活は、やることはしつかりとやっていました。運動会の練習では、最初はなかなかできないことがあったけど、先生に教えてもらって、段々と出来るようになっていきました。ちよっとしたトラブルが練習の時にあったので、寮の全員が一人ずつ三つの個人目標を立てました。僕の三つの目標の一つ目は、

「オライラしたら落ち着く。」です。

理由は、オライラしたら雰囲気が悪くなるからです。二つ目は、先生の話しをよく聞く。」です。理由は、先生の話しをしつかり聞いてやると、何事でもできるようになるからです。三つ目は、

「めりはりをつける。」

です。理由は、僕は心の切り替えがなかなかできないからです。この三つの目標を意識しながら運動会の日までやっていきました。運動会当日は、心が落ち着かなかったり、ドキドキしました。それでもしつかりと、自分の力を精一杯出しました。運動会では、練習通りできたことや、練習で出来なかったことができたこと

もありました。

この運動会は、「ふれあい」が入っている運動会だったので、競技でも原籍校の先生と一緒に競技したり、こども家庭センターの先生と一緒に競技をしたり、お父さんお母さんなど色々な人と一緒に競技をしたりしました。競技の最後のリレーでは、

もみじの先生や学園の先生も一緒に走りました。先生に負けないように、児童も生徒もしつかり走っていました。リレーは、とても白熱して

ました。とっても、すごかったです。とっても良い運動会でした。閉会式

が終わるまで、しつかりと頑張りました。練習をちゃんと頑張ったから、

本番でも頑張れたのかと思いましたが、今後の生活でも、学校生活でも、ク

ラブ活動でも、何事も最後まで諦めずにやりきり、一日一日ずつ自分が

成長できるように生活や、失敗してもその後で成功や成長をしていきた

いです。他には、退園した後の自分はどんな自分になりたいのかを考え

て、一日一日成長していくために、今の課題は何かをかんがえて、これからの生活をしていきたいです。

○来場者アンケートより



・子供の一生懸命の姿が見れて、とても嬉しかった。

・天気も良く楽しく時間を過ごせました。入場行進も素晴らしく、今までの練習の成果が出ていたのだと感じることが出来ました。

・入場行進での指先、背筋の伸びた歩き方、立ち姿から、子どもたちの運動会に賭ける気持ちはさることながら、普段からの生活の中での心構えがしつかりしていることが伝わってきました。

・応援合戦では、どのチームもアイディアとユーモアのあふれる演技と自分がふだん頑張っていることを堂々と大きな声で発表する姿に感動しました。

### ◆平和学習

小四 男子

平和学習に参加して、初めて戦争の恐ろしさを知ってびっくりしました。原爆資料館で被爆の写真を見ました。皮膚や火傷の痕を見て、怖いと感じました。色々な展示を見た中で一番印象に残ったのは、被爆された人の服です。そう思った理由は、凄く悲惨なめにあったことがよく分かるからです。また、初めて被爆し

た人の話を聞いて、原爆の恐ろしさがどれだけあるのかを知りました。僕は経験したことない戦争だけど、しつかり戦争のことを理解できました。そして、亡くなる人の命は、地球より重い。核と人間は、共存できない。憎しみの心の中から、平和は

うまれない、という詩を見ました。戦争や小さな争いを無くしていけば平和になる、と詩を見て僕は思いました。だから、これからの生活は、もめ事を起こさずに生活をしていこうと思えました。これからの生活も、平和になるようにしたいです。



中一 男子

僕は、被爆体験の講話を聞いて、原爆で癌になったり、多くの人の命が奪われる怖さが分かりました。また、火傷で皮膚が溶け、顔が腫れて、誰なのか分からなくなることや、体への影響が大きいことがよく分かりました。大の命は、地球より重い。核と人間は、共存できない。憎しみの中から、平和はうまれない。」と言われて、今、僕が生きているのは当たり前ではなくて、昔の人たちが

## 【試合結果】

17日 対 わかたけ学園  
 ①25-18 ②25-8  
 対 喜多原学園  
 ①25-9 ②25-8  
 18日 対 成徳学校  
 ①25-8 ②25-12  
 対 育成学校  
 ①25-18 ②25-12

◆中国女子児童バレーボール大会  
 十月十七〜十八日に鳥取県主催で大会が開催され、優勝しました。



努力されてきたから平和に生きていくのだから、平和でいることの大切さと、戦争と核兵器が世界にあってはいけないということを将来にわたって伝えていかなければいけないと思いました。講話を聞くまでは、別に知らなくてもいいと思っていましたが、講話を聞いた後は、平和でいることは当たり前ではなくて、平和でいる今をもっと大切に生きていきます。そして、平和であることの大切さを伝えていきたいと思えます。

\*中国地区のルールとして、チームメンバーは、四人から正式チームとして認められています。この条件を満たさない場合は、職員がメンバーとなり、オープン参加となります。今年度は、五人のメンバーで大会に正式参加しました。



中三 女子

私は入所して一カ月で大会に出ました。最初は、私のほかに四人の寮生がいるから、私は立っておくだけでいい。」と思っていました。しかし、バレー部の活動を見学して、本当は六人でプレーするところを五人でするから、私は立っているだけでは許されないと気付きました。

私は、入園時の支援が終わってから部活に参加しました。想像以上に暑く、部活での動きも上手くできなくて、他の寮生は上手なのに私は失敗ばかりで、そんな自分が嫌でした。部活を始めたばかりの時は、どんどんマイナスイメージになっていました。私は、スポーツをすることが嫌でした。だから余計にマイナスイメージになっていったのだと思います。思ったように体が動かなくて、凄く

辛かったです。そんな時に私が頑張ろうと思えたのは、寮生からの沢山の言葉のおかげでした。頑張れ！の一言が、私の中ではすごく大きな支えでした。寮や本館の先生、もみじ中学校の先生方からも数えきれないほど沢山の言葉をもらいました。きっと私は、その周りの支えが無かったら、大会まで頑張れなかったと思います。日々練習していく中で上達していく、できることが増えてきて部活が楽しくなっていました。大会が近づいてきて、本格的にポジションに入って練習していく中で、声が小さいことやサーブが入らないなどの課題も出てきて、練習試合をしながら少しずつ成長していきました。そして、大会に参加しました。

最初は、サーブが入るかな。」とか 五人で本当に大丈夫なのだろうか。」という不安ばかりでした。でも、おなかをボールを触ろう。」と思い、必死にボールを追いました。母や父、祖母や祖父が応援に来てくれていました。二十分ほど話をして、頑張れ！」と、背中を押してもらいました。大会の結果は、優勝でした。この一か月の努力と勝った嬉しさ、その逆で、この五人でのバレーボールが終わってしまったという

悲しさで涙が流れました。母も泣いていて、よく頑張ったね。」と言ってもらいました。

大会を終えて私が学んだ事は、努力する大切さと、仲間と協力し合うチームプレーの大切さです。私は、今回バレーボールを続けることが出来る、頑張ればできる。」という自信が付きました。

最初は不安ばかりだったけど、頑張った大会までやり切った、この五人でバレーボールができて良かったです。家族にもその姿を見てもらうことができ、最高の思い出になりました。今後は、バレーボールをとおして学んだ事を生活に活かして、何事も続けて頑張りたいです。



◆中国地区児童駅伝・マラソン大会  
 十一月八日に岡山県主催で大会が開催され、マラソンの部 中学生以上男子の部)で、優勝・準優勝・三位を独占しました。

駅伝の部は、予定していたメンバーがそろわなかったので不参加となりました。

## 中二 男子

僕は、中国地区児童駅伝・マラソン大会までの練習で、悪かったところがありました。それは、怪我を理由にして練習を怠っていたことです。それを先生に指摘され、一時期練習ができなくなってしまいました。先生との話で、全力で練習をやっていたということを決めました。その後は、しっかりと全力で練習することができました。大会前日、大きな目標を立てました。それは、駅伝の部で区間賞を取ること、全力を尽くして悔いの残らないようにすることです。その日にメンバー発表があり、僕は一区を走るようになりました。大会当日の出走式の時、悲しい出来事がありました。それは、人数不足で駅伝を中止し、マラソンの部に移るということでした。その時は、駅伝に出たかっと思っていました。でも、決まったことは変わらないので、気持ちを切り替えました。僕は、去年一区を走りました。その時はペースを上げ過ぎて、途中でペースが落ちてしまいました。だから、今年は自分のペースで走ろうと思いました。会場に着くと、試走をしました。他の人は僕より体が大きくて、僕より速いだろうなと思っていました。

スタート前には、先生から最初は抑えて走れ。」と言われました。僕は、二位になれるかなと思いつながらスタートを待ちました。いよいよ中学生以上のマラソン男子の部が始まりました。最初は、ペースを少し抑えて走りました。だんだんと前にいた人が少なくなり、たった四人だけになりました。また一人、また一人と追い抜き、最終的には僕と愛媛県の選手だけになりました。この時点で、僕は一位になれると確信していました。なぜなら、愛媛県はオープン参加なので順位に入らないからです。しかし、僕とその選手は接戦になりました。もう体力は限界でした。その時は、愛媛県の選手に抜かされてしまいました。僕は最後の力を尽くして追いつこうとしましたが、首を振ってしまい、危うくこけてしまうところでした。結果的には一位で表彰されたけど、少し悔いがあります。全力を尽くせなかったのではなく、練習を怠ってしまったことです。もしあの時、怪我を理由にして練習を怠っていなければ、もしかしたら愛媛県の選手を抜かしていたかもしれないからです。このことで学んだ事は、一つの「これくらいでいいや」という気持ちだが、後々後悔を生んで

しまうことです。これからは、一日一日を大切にしていきたいです。これが未来に繋がってくると思うからです。マラソン以外のことでは、他県の方々に、挨拶や礼儀を正しく行えられたのが良かったです。これからも、挨拶と礼儀マナーは、広島学園が一番」というのを保っていきます。

## 第二回進路講演会

今後訪れる人生の選択」

講師 今仙電気製作所株式会社

広島工場 本宮様



## 中三 女子

今回の講演をとおして、自分という人間をしっかりと理解すること、コミュニケーション能力を高めることが大切だということが分かりました。私も人とコミュニケーションをとるのが苦手で、よく相手を傷つけてしまったり、自分の思いが相手に伝わらないままになったりすることがあります。しかし、苦手なことをそのままにしておいてしまったら、

就きたい仕事があっても就けないのではないかと思います。苦手なことにチャレンジしていくことも、将来に向けて大切なことなのではないかと思えました。そして、悩みや失敗を相談できる人を作っていくと、明るい人生になっていくことも分かりました。失敗してしまったり、悩みを誰かに伝えるというのは、なかなか難しいことだと思いますが、明るい人生を築いていくためにやっていった方がいいことだと思います。友達でも、先生でも、家族でも、誰でもよいから相談できる人を一人は決めておこうと思います。これからも苦手なことにチャレンジしていきながら、少しずつ自分の夢を叶えられるように努力していこうと思います。今回、また夢に向かって頑張ろうと思えました。お忙しい中、本当にありがとうございます。

## ◆文化活動発表会

内容

- 教科等の発表 総合・杖道・茶道
- ・太鼓・労作・部活の取組み
- 和太鼓演奏・全校合唱
- 創作表現 各寮
- 作文朗読 児童代表

○模擬店・バザー

○地域発表

・西川秀清会 舞本舞踊)

・東広島地区更生保護女性会

(ハンドベル演奏)

・東広島BBS会 創作劇)

・東広島マジックサークル 手品)

作文朗読より

期待を現実のものにするために」

中三 男子

僕は、他人に大きな迷惑をかけてしまったのに、そのことに向き合おうとはせず、何回も同じことを繰り返してしまい、広島学園に入所しました。入園時の個別支援では、何で、こんなところで生活をしないといけないんだろう。ここで頑張っても、何も変わらない。ここに、一年もいたくない。一と思いました。その後、節目、節目で振り返りをしました。振り返りをおして気付いた大切なことがあります。一つ目は、やるべきことを、先生が見ていないところでも手を抜かないことの大切さです。入所間もないころ、僕はやるべきことがあるのに、どうにか楽をしようとして手を抜くことができました。その度に先生から注意を受け、やるべきことをきちんと行うことで、成

長や信頼に繋がることを学びました。今では、寮のことを任せられるようになりました。二つ目は、自分よりも先に他人のことを考えることの大切さです。以前は、自己中心的な考えを持っていましたが、四月から最高学年となり、他の寮生の手本となり、まとめないといけないという気持ちが強くなりました。そのためにも、まずは寮生の立場に立って考え、行動することを意識しました。三つ目は、ストレスが多くなった場面でも、少し立ち止まり、その先のことを考えて行動することの大切さです。以前の僕では、ストレスや不安が溜まっても先生に報告もせず、我慢が限界に達した時に爆発させていました。その時に、自分の行動を先生と話し合い、行動と結果について考えて判断する大切さを学びました。入所して良い方向に変わったこともありましたが、多くの課題にも気付きました。昨年の陸上部の活動では、走るのが面倒くさい。「走りたくない。一」という思いがありました。だから僕は、どこかが痛くなったら、走らなくてもいいかも。一と、安易な考えをしてしまい、実際に体が痛い感じがして、そのことを チャンス！」だと思ひ、そのまま手を抜いて

練習に参加しませんでした。そのため中国地区の駅伝・マラソン大会に参加できずに、寮に残ることになりました。その時に僕は、きつい練習はしなかったけれど、皆と大会に行った方が楽しかっただろうな。一と、感じました。実際、大会に参加した皆は、やりきった表情で学園に戻ってきました。その姿を見て、皆は、大会のために練習を頑張っていたのに、僕はきつい練習が嫌だからと練習をさぼり、大会にも参加できない。情けない。恥ずかしい。一と、思いました。その時から、部活で皆と走るとき、皆に抜かされるたびに、頑張っていなかった自分が恥ずかしくなりました。そこで、せめて園内・校内駅伝までは、皆と同じように走り、皆みたいに頑張りたい。一と、思うようになりました。園内・校内駅伝の当日、始めから終わりまで手を抜かずに走り切ると、かなり体がきつかったです。ただ、皆も同じようにきつかっただろうな。一 皆も頑張っていたんだな。一と、改めて感じました。駅伝大会が終わると、走り切った達成感がありました。それと同時に、中国大会の前から一生懸命に走っていれば、もっと良い走りができたのではないかと、悔やむ

気持ちもありました。現在、再び陸上部の活動が始まりました。僕は、先頭集団で走り、皆を引っ張ることを目標とし、日々の練習に取り組んでいます。このように広島学園の生活は、成功と失敗の繰り返しです。その僕を、いつも応援してくれる人もいます。家族には、毎月の面会や行事で、僕の姿を見てもらいました。退園後には、今まで迷惑をかけてしまったので、家族のためになるようなことを手伝い、一緒に過ごしてもらいたいです。原籍校の先生には、入所前に色々なアドバイスを貰っていたにもかかわらず、それを聞くことはしませんでした。もみじ中学校では高校進学を目指し、学力を向上させるために毎日取組んでいます。僕には、高校を卒業して福祉の専門学校に進み、母と同じ福祉分野で働くという夢があります。そのためには、広島学園で多くのことを学んでいく必要があります。寮やもみじ中学校の先生には、生活の色んな場面で、成長できる点や課題についてアドバイスをしてもらい、ありがとうございます。退園する時には、僕が入所した時よりも大きく成長したと思ってもらえるように、日々頑張っていくので、よろしくお願ひします。

今回、自分自身の広島学園での生活を振り返り、課題や目標を改めて考える機会になりました。今、聞いて下さっている方々の期待を現実のものにするために、これからも頑張っていくきます。



発表会を終えて

中三 男子

僕の今回の文化活動発表会での目標は、二つありました。一つ目は、作文朗読で入所前の自分について振り返ること。二つ目は、演技で自分の成長を伝えるということでした。

一つ目の目標では、入所前のことや課題について振り返ることが、恥ずかしいと思っていました。だから自分の正直な気持ち、自発的に書いていきました。しかし、先生から今回の作文で、自分のことについてしっかりと書けたら、それは必ず自分の成長につながる。」と言われてました。成長できるのならやってみようと思って、作文に取り組みました。本番では、自分の書いた作文で涙を流しながら聞いてもらった

り、とても感動した。」おかったです。「という声をいただきました。とても嬉しかったです。作文で読んだことが、これで終わってしまわないように、これからの成長につなげていきたいです。二つ目の演技で自分の成長を伝える」という目標では、部活で頑張ったことや成長したこと、学べたことを自分の言葉や態度で伝えることができました。そして、見てくれていた人に感動を与えられることができました。今回、僕は接客もしました。とても忙しかったです。やることがたくさんある中で、効率よく一つ一つをこなしていく能力が、接客では必要だということを感じました。それは、寮生活でも身に付けることができる技である、と思います。発表会に向けた練習では、寮全体のテンションが上がってしまったたり、トラブルになってしまったたりすることが多くありました。その度にみんなで「次は頑張ろうや」と声を掛け合い、一つのものを作ってきました。本番でも、見ている人を楽しませるような演技ができていたと思います。最後に、僕が今後の生活で生かしていきたいことが、二つあります。一つ目は、感謝の気持ちです。舞台の用意や、道具の用意

をたくさん先生にしてもらいました。それが当たり前ではないことを常に頭の中に入れて、先生に感謝して生活していきます。二つ目は、僕が作文朗読で読んだように、母が命を絶とうとするくらいまで迷惑をかけてしまったこと。物を盗ることで、数えきれないほどの人に迷惑をかけたしまったということをしっかりと頭の中に入れて、在園中だけでなく、退園後も生活していきます。



東広島ライオンズクラブとの餅つき交流会

中一 女子

今日はお忙しい中、私たちのために餅つき交流会に来てくださり、ありがとうございます。私は、お餅を搗いたことはあるけれど、搗き立てのお餅を食べたことがありませんでした。それに、私は餅つきの行事に参加したことがなくて、どんなことをするのだろうと思っていました。緊張もありました。しかし、ライオンズクラブの皆さんが、とても優しく親切に接してくださったので、緊

張もほぐれて楽しく過ごすことができました。私は、餅は何のために搗くのだろうかと思っていました。大切で、大切な日本の文化であることを教えてもらい、とても嬉しかったです。また、「一緒に来て下さった留学生さんとも、沢山お話することができました。搗き立てのお餅を焼いて食べると、とても美味しかったのでたくさん食べました。ライオンズクラブの皆様には、もち米や記念品なども準備していただき、ありがとうございます。ライオンズクラブの皆様のおかげにも、私は自分の課題を少しずつ直していけるように、学園での生活を頑張りたいです。



ホームページ

広島県のホームページの中に、  
県立広島学園のページがあります。支援者の方との交流や学園の行事の様子などを掲載しています。

http://www.pref.hiroshima.jp/sis/hiroshimagakuen/